

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

様々な背景を持った生徒が、社会の有為な人材となるような教育活動を実践する学校をめざす。

- 1 基礎学力をしっかりと身に付け、自己肯定感を基に「夢」や「志」を開拓できる生徒を育成する。
- 2 社会を生き抜く規範意識とマナーを持ち、社会に貢献できる多様な人材を育成する。
- 3 教職員が多様な生徒に対応する教育力を高め、生徒や保護者、地域から信頼される学びの場をめざす。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 高等学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、生徒に達成感を与える「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に取り組む。

- ・生徒の実態に応じた授業改善、教材の開発・工夫に取り組み、基礎学力の充実・定着を図り、将来に向けて一般教養としての定着も視野に入れる。
- ・首席の主導のもとに、教員相互の公開授業や研究授業に基づいた研修会をさらに充実したものにし、令和4年の新指導要領に対応した力をつける。
- ・教務部の主導のもとに、ICTの効果的な活用や授業の研究・改善について組織的に取り組み、3年後には全教員が活用していることを目標とする。

※学校教育自己診断の「授業内容に関する項目」に対する、生徒の肯定率80%以上を令和4年度も維持する。(H29 80% H30 88% R1 92%)

2 生徒の達成感や自尊感情を育み、夢の実現に向けた支援体制の確立

(1) 社会性と規範意識の確立と自尊感情の醸成

- ・生徒が自らの行動を律することのできるよう基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成に努め、3年後には生徒が積極的に教員や来客に挨拶する学校となっていることをめざす。

※学校教育自己診断の「生活指導に関する項目」に対する、生徒の肯定率80%以上を令和4年度も維持する。(H29 87% H30 92% R1 86%)

- ・特別活動や行事、部活動および自治会活動等を通じて集団の中で協力しながら活動できる力を育成する。令和4年度の学校行事参加率90%達成、部活動加入率55%以上の維持を目標とする。(学校行事参加率 H29 87% H30 不明 R1 89.9%) (部活動加入率 H29 55% H30 55% R1 61%)

(2) キャリア教育の充実と進路保障

- ・入学時から進路に対する動機付けができるよう、ハローワークやキャリアブリッジなどの外部機関と連携し、1年次から計画的にキャリア教育を実施する。

- ・卒業時の正規雇用希望者の合格率80%以上を令和4年度も維持する。(H29 87% H30 70% R1 100%)

※学校教育自己診断の「進路指導に関する項目」に対する、生徒の肯定率80%以上を令和4年度も維持する。(H29 89% H30 92% R1 86%)

- ・支援を要する生徒の進路選択について外部機関と連携して、よりよい進路選択が実現するよう努める。

(3) 在籍生徒状況の適正管理と新入生の進級率の維持向上

- ・保護者や関係機関との連携を強化するとともに、支援コーディネータ、教育相談コーディネータを中心とし、SSW や SC の制度を最大限に活用して支援や指導が必要な生徒に適切な支援・指導を組織的に行う体制を一層推進する。

- ・生徒情報の共有を確かなものにし、生徒理解を深め、中途退学や留年の防止に努め、令和4年度には中途退学者率を5%台にとどめる。(中途退学者率 H29 9.5% H30 13.8% R1 8.3%)

- ・長期にわたり登校実績のない生徒の状況を把握し、適正な在籍管理を行う。

※令和4年度の新入生の進級率を80%以上にする。(H29 76% H30 79% R1 80%)

(4) 支援が必要な生徒に対する学習環境の充実化

- ・首席を中心として学習支援員や介助員、保護者との連携を密にするとともに支援体制をさらに充実化し、行事などにおいても支援が行き届くことで、支援を要する生徒がさまざまな場面において積極的に学習に臨むことができる環境を提供する。

- ・さまざまな背景をもつ生徒に対応できるよう、教員が最新の情報やメソッドを積極的に学び、研鑽に励むことができる環境を整える。

3 開かれた学校運営と地域連携

(1) 全教職員が学校経営に参画する自覚を持ち、組織力向上のために活発な意見交換ができる環境を整え、協働連携の学校文化をさらに醸成する。

(2) 本校定時制振興会の協力を仰ぐと同時に、全定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にして、さらに有効有意な関係を構築する。

(3) 地域連携を進め、地域に理解され、地域から信頼される学校をめざす。

- ・豊中市立の中学校18校を中心に中学校訪問や中高連絡会を行い、連携と情報共有を推進する。豊中市立第四中学校夜間学級との連携をさらに強化する。

- ・豊中市役所、警察署、社会福祉協議会、子ども家庭センター、国際交流センター等の外部機関との連携を推進し、生徒の健全育成に役立てる。

- ・学校運営協議会と定時制振興会の活性化を促進し、学校改善のために意見を学校経営に反映させる。

- ・学校Web ページやブログ等による、広報活動の一層の充実を図る。

※学校教育自己診断の「地域連携に関する項目」に対する、教職員の肯定率80%以上を令和4年度も維持する。(H29 85% H30 83% R1 93%)

(4) 18歳以上の生徒に対して選挙権の行使を促し、社会活動に積極的に参加する意識を醸成する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学校に対する満足度】「本校に入学してよかった」の肯定的回答率が保護者、生徒とも90%以上となっている。一方、授業については「授業はわかりやすい」「先生が授業について工夫している」という回答が生徒は90%94%であるのに対して保護者は76%74%となっているが、ここからは生徒が保護者にそのように伝えていないということが伺われるので、授業公開の参加を促したり、授業についての生徒の感想を発信したりする工夫が求められる。一方、成績評価については生徒よりも保護者の肯定的回答率の方が高くなっている。保護者の自由記述には「生徒の多様性に対応している」「個々への手厚い指導がなされている」という記述が多い一方、施設改善と、生徒の学校滞在時間の延長を望む声が聞かれたため、全日制とにより改善を考える必要がある。</p> <p>【教職員】全体に教員の連携についての項目の肯定率が他に比べて低めであったが、今年度は親睦会などが皆無であったこともその要因になっていると思われる。</p>	<p>第1回(7月31日)</p> <p>○中学校への広報も大切だが、全日制高校を退学した生徒などへのセーフティネットとして全日制高校との連携も広げるべきだ。</p> <p>○コロナ感染拡大の影響を大きく受けていると思われるが、今後の学習計画の充実を望む</p> <p>○イベントの手伝いなど商店街との連携を総合的な探究の中に取り入れてはどうか。</p> <p>第2回(12月24日 書面開催)</p> <p>○授業アンケート結果から生徒が授業に集中して取り組んでいる様子が見える一方で自らの成長についての自覚に乏しい傾向が見られるのでこの傾向の改善のため、教員が考え、努力することを望む。</p> <p>○コロナ禍で行事開催が難しい中、可能なことを精いっぱい実行している様子が見える。修学旅行については万全の対策で臨んで欲しい。(修学旅行はその後年度に延期決定)</p> <p>第3回(2月22日開催)</p> <p>○就職未定のまま卒業した生徒へのフォローもよろしくお願ひしたい。</p> <p>○今年度偶発的に連携することになった機関とは今後も組織的に連携してはどうか。</p>

府立桜塚高等学校 定時制の課程

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善への取り組み ア・教務部と各教科の連携による授業改善 イ・公開授業と授業アンケートを活用した授業改善の推進 ウ・ICTを活用した研究授業による授業改善の推進	(1) ア・首席、教務部の主導のもとに各教科が連携し、生徒の実態に応じた授業改善に継続的に取り組む。 イ・年間2回実施する公開授業（6月、11月）に合わせ、教員相互の授業見学週間を設定し、他の教員からの助言を授業改善に活用する。 ・11月の公開授業後に、授業改善のために全員参加の研修会を実施する。 ・授業アンケート（7月、12月）は第1回を課題把握、第2回を成果検証と位置づけ授業改善を推進する。 ウ・教務部の主導のもとICTを使った効果的な授業方法を検討しその公開授業を実施する。	(1) ア・学校教育自己診断の「学力面」に対する生徒の肯定率85%以上を維持する（R1 92%） イ・全教員による年4回以上の授業見学の推進 ・学校教育自己診断の「授業における工夫」に対する教員の肯定率90%以上を維持する（R1 93%） ・授業アンケート後期ポイントが前期より0.2ポイント以上上昇する。 ウ・学校教育自己診断の「授業の工夫」に対する生徒の肯定率85%以上を維持する（R1 90%）	(1) ア・学校教育自己診断の「学力面」に対する生徒の肯定率90%。担任、教科、管理職による情報交換による授業改善の取り組みを随時行った。(◎) イ・各人年4回は達成しなかったが、若手教員が熱心に取り組み、来年度からチームで取り組む方法への改革につながった。(○) ・学校教育自己診断の「授業における工夫」に対する教員の肯定率100%(◎) ・授業アンケートについては前半がコロナの影響を受けているため指標としては成立しない。*参考 前期3.41 後期3.46(一) ウ・学校教育自己診断の「授業の工夫」に対する生徒の肯定率94%。多くの授業でICTが効果的に利用されている。(◎)
2 生徒の達成感や自尊感情を育み、夢の実現に向けた支援体制の確立	(1) 社会性と規範意識の確立と自尊感情の醸成 (2) キャリア教育の充実と進路保障 (3) 在籍生徒の適正管理と新入生の進級率増加 (4) 支援が必要な生徒に対する学習環境の充実化	(1) ・遅刻しない、欠席の際の事前連絡、人の話を聴く態度、言葉づかい等、社会性と規範意識の確立をめざす。 ・学校行事の充実化、部活動参加の促進。 ・「総合的な探究の時間」を活用して自らについて深く考え、社会に貢献できる人間像を確立し、自らの目標とする。 (2) ・1年次から計画的に進路指導部と学年が連携しキャリア教育を実践する。 ・外部講師の講演を積極的に実施し、進路に対する動機付けを行う。 ・支援を要する生徒の進路開拓 (3) ・生徒との面談や保護者との懇談、日常の電話連絡や家庭訪問を通じ、一人ひとりの生徒に対して、きめ細かく対応する。 ・首席を中心として、外部機関との連携を密にし、組織的に生徒の支援に努める。 (4) ・支援コーディネータである首席を中心とした組織的かつ細やかな生徒支援に努める。 ・豊中市社会福祉協議会、豊中市国際交流協会や大阪大学、関西大学との連携に努め、生徒の支援に関わっていただく人材の確保、充実に努める。 ・学習支援員の回数の割り当てを支援が必要な生徒に最大限有効に配分するとともに、教員の行事の割り当てなどの工夫を行う。	(1) ・学校教育自己診断の「規範意識」に対する生徒の肯定率85%以上を維持する（R1 87%） ・部活動加入率55%以上を維持する（R1 61%） ・学校行事に対する生徒の肯定率85%以上を維持する（R1 81%） (2) ・学校教育自己診断の「進路指導」に対する生徒の肯定率80%以上を維持する（R1 86%） ・卒業時の正規雇用希望者の合格率90%以上を維持する（R1 100%） (3) ・新入生の進級率70%以上を維持する（R1 80%） ・学校教育自己診断の「本校への満足度」に対する生徒、保護者の肯定率90%以上を維持する（R1 生徒90%、保護者94%） ・新たな連携先の確保 (4) ・外部組織との連携による支援実績 ・大阪大学生や関西大学生、地域の方々による学習支援員、夜間介助員の確保状況	(1) ・学校教育自己診断の「規範意識」に対する生徒の肯定率88%。マスク着用率100%(運動時以外)(◎) ・部活動加入率57.5%。近畿大会に4種目出場(◎) ・学校行事参加率90.1%(◎) (2) ・学校教育自己診断の「進路指導」に対する生徒の肯定率88%。外部講師による進路講演、ミュージカル(web)の実施。キャリアパスポートの実践(◎) ・卒業時の正規雇用希望者の合格率90%(○) (3) ・新入生の進級率68.3%。(△) ・学校教育自己診断の「本校への満足度」に対する生徒、保護者の肯定率生徒91%保護94%。(◎) ・長年欠席のまま退学手続き等が滞っていた在籍生へのアプローチを行い、手続きが進行している。 ・1年生2名について箕面市教育センター、箕面らいとびあ21との連携による指導を実践した。(○) (4) ・豊中市社会福祉協議会よりコロナによる経済的被害を受けた生徒への食糧支援を受けた。(◎) ・大阪大学学生による学習支援の継続、地域の方々による夜間介助員の継続ができた。(○)
3 開かれた学校運営と地域連携	(1) 全教職員が学校経営に参画しているとの自覚を持ち、活発な意見交換ができるよう環境を整える。 (2) 地域との連携を進め、地域から信頼される学校をめざす。	(1) ・令和元年度からの新しい学校組織体制について、現実的な実効性のある形を確立する。 ・職員会議等の各種会議を効率化し、時間外労働時間の縮減を図る。 ・教職員の防災や防犯に関する知識の再確認と研修を実施する。 (2) ・学校Webページの更新を継続し、ブログを効果的なタイミングで更新する。 ・豊中市立各中学校を中心に中学校訪問や中高連絡会を実施し連携を進める。 ・豊中4中夜間学級と連携し、相互の授業見学会等を実施する。 ・学校説明会で、保護者や卒業生等に、学校生活について話してもらう場面を設定する。 ・豊中市役所、警察署、子ども家庭センター等の外部機関との連携を行い生徒の健全育成に役立てる。 ・地域の高等学校や支援学校との情報交換や連携を積極的に行う。 ・学校運営協議会と振興会の活性化を促進し、積極的な意見を述べてもらう。	(1) ・学校教育自己診断の「学校運営への積極的な参加」に対する教員の肯定率90%以上を維持する（R1 93%） ・職員会議1時間15分以内 ・学校教育自己診断の「防災や防犯に関する項目」に対する教員の肯定率85%以上を維持する（R1 87%） (2) ・ブログを効果的なタイミングで更新し、学校情報の発信に努める。 ・中高連絡会、学校説明会、個別の学校見学の参加者、中学校数の20%上昇（R1 28校） ・学校教育自己診断の「地域連携に関する項目」に対する教員の肯定率85%以上を維持する（R1 93%）	(1) ・学校教育自己診断の「学校運営への積極的な参加」についての教員の肯定率100%。(◎) ・職員会議はほぼ毎回1時間15分以内で終えた。(○) ・学校教育自己診断の「防災や防犯に関する項目」に対する教員の肯定率76%。コロナにより心肺蘇生等の研修が実施できなかったことも一因と思われる。(△) (2) ・ブログについては昨年より更新頻度は飛躍的に上昇し、写真なども増え、内容も充実した。とくにコロナ禍下の生徒への励ましに利用した。(○) ・中高連絡会、学校説明会、個別の学校見学の中学校数31校（コロナによるキャンセル3校あり）(○) ・学校教育自己診断の「地域連携に関する項目」に対する教員の肯定率91%。(○) ・地域の高等学校、支援学校との連携および学校運営協議会や振興会の活性化はコロナ感染拡大防止のために実行できなかったため、評価できない。(一)